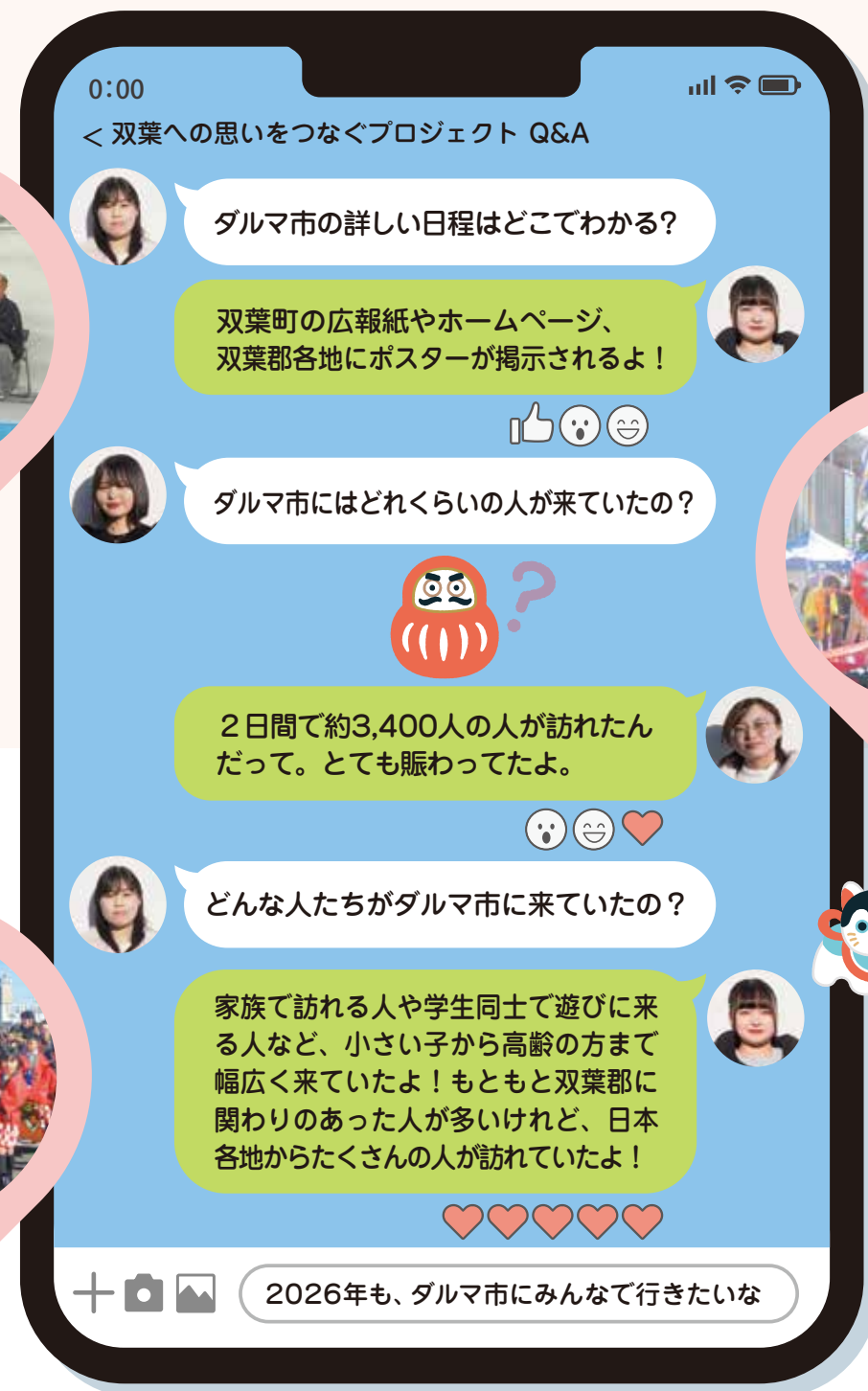




editorial note 編集後記

本冊子は、福島大学の学生が主体となり、2024年の夏から双葉町ダルマ市に関する取材等をまとめたものです。
ダルマ市に長く携わる3人の方たちのインタビューや当日の様子、来場した方々の思いに注目して見ていただきたいと思います。
学生ならではの視点から、双葉町やダルマ市を知っている方はもちろん、知らない方や若い世代にも手に取ってもらいやすいようなデザインや文章を心がけました。
ぜひ1人でも多くの方に、手に取っていただければ幸いです。

- 福島大学／坂田直香、細田真矢、永井恵衣、立石茉穂
- 福島大学特任助教／久保田彩乃
- 環境省福島地方環境事務所 ● 環境再生プラザ



本プロジェクトにより制作されたラジオ番組はWEBでも聞くことができます。
番組タイトル：「双葉への思いをつなぐ～ダルマ市を通して町民の願いを次世代へ」



2025年3月発行

双葉への 思いをつなぐ

ダルマ市を通して
町民の願いを次世代へ



双葉への思いをつなぐプロジェクト

はじめに

この冊子は「双葉町ダルマ市」をテーマに、双葉町の皆さまや双葉町へ思いを寄せる方々の「町へのつながり」「町民同士のつながり」や、町民の思いを「次世代につなぐ」ことを目的として制作しました。

私たち福島大学の4人の学生を中心に、実際に何度も双葉町を訪れ、フィールドワークやインタビューを行いました。インタビューではダルマ市に携わる方々に協力いただき、ダルマ市への思いや考えをお聞きました。またダルマ市にも参加し双葉町の温かさを感じることが出来ました。本冊子では当日の来場者の方々からいただいたメッセージも掲載していますのでご覧ください。

福島大学は地域に根ざした様々な活動をしており、また震災後の福島の復興に関わっています。大学での学びから、福島の復興や地域再生において、今後を担う若者が果たす役割が非常に重要であり、その一環として、双葉町に貢献したいという思いを持ち参加しました。活動を通して、双葉町への理解が深まり、自身の成長や学び、地域貢献を実践する貴重な機会になりました。

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から14年たった今、双葉町から避難せざるを得なかった方はもちろん、冊子を通して双葉町に興味を持ってくださった方々に、改めて双葉町の魅力や町民の思いを知っていただき、双葉町や福島県のつながりを再確認するきっかけにしていだければと思います。

2025年3月
双葉への思いをつなぐプロジェクト

双葉への思いをつなぐプロジェクトとは

このプロジェクトは、環境省が福島の未来を担う若者世代と連携し、浜通り地域の復興と環境再生の状況を広く県内外に向け発信していくことで、地域の活性化に貢献することを目的に2024年に始動しました。第一弾のテーマは「双葉町ダルマ市」。福島大学の学生4人が中心となり、さまざまな「つなぐ」を目指し、双葉町訪問や町の方々への取材活動等に取り組みました。取り組みの様子は、この冊子やラジオ番組を通して、発信していきます。



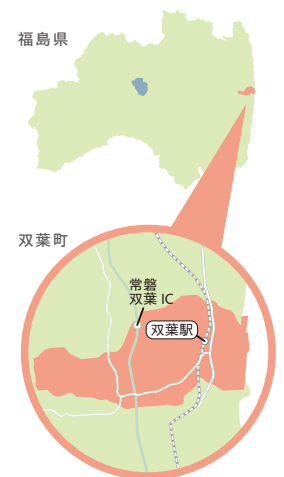
双葉町ダルマ市って？



福島県双葉町で毎年1月に開催される双葉町ダルマ市は、江戸時代から300年以上続く伝統ある祭りで、地元住民や観光客に親しまれています。祭りの会場では、地域特有のデザインが施された「双葉ダルマ」をはじめ、さまざまなダルマが並びます。商売繁盛や家内安全、無病息災の祈願に、双葉町のお土産にと、多くの方々が縁起物のダルマを買い求めます。地元の特産品や食べ物の屋台も多数出店し、祭り全体が賑やかな雰囲気に包まれます。

ダルマ市のもう一つの魅力は、「巨大ダルマ引き合戦」や「ダルマ神輿」、「子どもダルマ神輿」。老若男女問わず参加や交流で楽しむことができる催しです。他にも、どんと祭、ステージショー、神楽や民俗芸能、芸能発表会など2日間の催しは盛りだくさんです。迫力ある巨大ダルマや賑やかで温かな祭りの雰囲気には、地域独自の文化や絆が感じられます。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による全町避難後、「夢ふたば人」が中心となり、避難先でも途切れることなくダルマ市を開催し続けました。双葉町ダルマ市は、伝統文化を継承しながら未来への希望を託す場として今後も末永く続いていく、双葉町の伝統や思いをつなぐ、多くの人々にとって大切であり続ける祭りです。



INDEX

インタビュー

取材内容は聞き書き表現で記載しました。



P11

双葉町ダルマ市2025レポート

P13

ダルマ市MAP2025

P15

来場者の思い

裏表紙

双葉町ダルマ市に関するQ&A
編集後記

P3



夢ふたば人 会長 中谷 祥久さん

震災後、消防団の有志で夢ふたば人を結成。ダルマ市を途切れることなく避難先で開催し町民の絆の維持・発展に取り組んでいる。

P5



JA福島さくら 女性部双葉支部長 石田 恵美さん

震災後より避難先に女性部の中心メンバーとして双葉ダルマの絵付けを行っている。

P7



双葉町商工会 会長 岩本 久人さん

2023年と2024年の双葉町ダルマ市実行委員会委員長。町商工会、議員活動の他、伝統芸能の保存活動にも取り組み、神楽の太鼓奏者なども務めている。

P9



奉納神楽 (初發神社) 新山芸能保存会
三字芸能保存会
渋川芸能保存会

ダルマ市2日目に初發神社において神楽を奉納した3団体。

interview

なかや よしひさ
中谷 祥久 さん

夢ふたば人 会長

震災後、消防団の有志で夢ふたば人を結成。
ダルマ市を途切れることなく避難先で開催し
町民の絆の維持・発展に取り組んでいる



01

楽しさしかなかった10代のダルマ市

双葉町消防団の第2分団に所属していた。それは私が18のときなので、震災の年まで11年間。どんと祭の警備とか、裸でダルマ神輿をやっていた。最初は嫌だったけど、やってみると楽しさしかなかった。自分ら2分団がアピールできるじゃないけど、新年になって「無病息災、家内安全」って言いながら練り歩くので、町民のためになっているのかなと思っていた。途中でお湯かけられたり、真冬に水をパッとかけられてみたりとか...楽しさしかなかったね。10代のときって、どんな人が双葉町民なのかってわかんないじゃない。関わっていくと「こういう人もいるんだな」とか「町にこういう人が関わっているんだな」というのが見えてきて、そういうのが楽しかったね。



02
発足
夢ふたば人の

「夢ふたば人」が発足して、まず仮設住宅でイベントみたいなのをやった。それを練習にということで、その後1月のダルマ市をやったんだけど。まず準備が大変で。双葉でやるときだったら、ここに何があるとか全て把握してるんだけど、いわきでやる場合は何もない状態から始まったので、いわき市の人に聞いてというか。それでいろいろ集めて。ダルマ神輿も1基だけ除染して持ってきたっていう感じ。

03

他の地域に避難している子どもたちが再会できるきっかけに

ダルマ市をやったのは、子どもたちってなかなか車がなければいわき市に來れないので、他の地域に避難している子どもたちが、「本当にいわき、ダルマ市やるんだってよ」といううわさ程度でみんな集まってきてくれて、それが子どもたちの再会の場所になっているという。思った以上に人が来てくれて。印象的だったのは、泣いて喜んでくれている方が結構いっぱいいるということ。その姿をみて「やって良かったな」という思いがあった。うちらも、やって楽しくなければ何も意味がないので、その辺は良かったのかなと思う。

04

若い人たちに伝えていく難しさ

震災があって、若い人たちとの出会いがなくなってしまった。双葉にいれば、どこどこに何歳の若い子がいて、消防団に入るんじゃないとか、そういうのがあったんだけど、今はそれぞれに避難しているので。どうやって伝えていくかというのも問題だし。夢ふたば人とかダルマ市とか、双葉に興味を持ってくれている町外の大学生がいろいろ興味を持ってくれているのは、すごくいいこと。もともと双葉に住んでいた人に興味を持ってもらうには、どうしたらいいのかな...



05

次の世代へこの先も

俺は別に、震災の記憶を伝えるよりも、自分たちが双葉でこういうことをやっていて、もし若い子が来たら「これからもこういうのをやってほしい」と伝えたい。伝統というか、そういうのをつないでほしいんです。新しい形になってもいいですよ、それは。三百何年続いていると言われていたの、やっぱり次の世代次の世代と行かないと、全然続いていかないと思うので。なくては駄目だと思うので。



同じ場所での開催を目指して

06

震災前は、旧6号線を南北に流してやっていた。双葉に帰ってからは、駅前の広場のところでダルマ市をやっているの、また元に戻したいという思いはある。元に戻して、出店者数も広げて、子どもたちもより来やすい環境を整えなければいけないかなと思っているので。やっぱり子どもたちに来てもらわないと、活気が出ないからね。

interview

いしだ えみ
石田 恵美さん

JA福島さくら女性部双葉支部長

震災後より避難先にて女性部の
中心メンバーとして
双葉ダルマの絵付けを行っている。



01 ダルマ市参加のきっかけ

私たちは最初から、ダルマ市に参加しようという考えはなく、もう逃げて歩くのも生きるのも精一杯だったのね。でも、夢ふたばの人たちが一生懸命、「ダルマ市、盛り上げてやっていかないか、ダルマ描いてもらえないか」なんて言うことがあったの。今までは、農協の2階でやってたんだけど、「なかなか場所がないからどうしようかね」なんて言って。うちの借りてるアパートで双葉の人たちが一室に集まって始めたのが最初です。ダルマを作ったこともなかったけど、長年ダルマ作ってる人がいわきにいたので、相談して、作り方を教わったりして。

02 思込めるに ダルマに

やっぱり家内安全が一番かなと思います。みんな、家内安全が何より大切だもんね。交通安全よりも何よりも。やっぱり家族があって、それからですね。家内安全、交通安全が一番かな。

03 震災前 ダルマ市の 思い出

震災前のダルマ市の思い出はそれは賑やかで。今までは農協の女性部に関わっていたので、ダルマ買ってもらった人に漬物をあげるんだと言って、いっぱい野菜を持ち込んで、1週間くらい前から漬けて準備してというような感じでした。あと野菜を皆さん持ってきて売ったりとか。



04 2024年のダルマ市は日本全国からも

もう、すごい人。たくさんの方が来て、本当に懐かしい、懐かしいって言われて。近くだけでなく、本当に遠い所から来た人いたね。「どちらからお見えになったんですか？」と声をかけると「テレビを見て来た」とか「インターネットを見て来た」とかって言って、本当に日本全国いろんな所から来ていただいたり。あと「このダルマかわいいから送ってくださいね」なんて言って下さるので必ず送りますね。そして「送料はそちらで負担でよろしいですか？」と伝えても、みなさん「大丈夫です」と引き受けてくださる。本当に皆さんに助けていただいて。

05 毎年、また会えたねって言って来てくれる人がいる

以前は、ただ参加すればいいとかという感じだったんですけど、ダルマの絵付けをするようになってからは、やっぱり皆さんの健康とかを願うようになったのね。それに毎年、また会えたねって言って来てくれる人がいるので、それが一番楽しみだね。去年も来て、「変わりなかった？」っていうような話を。ずっと南台でやっていて、南台が終わってからは勿来酒井の復興住宅でやったんですけど、そのときも来てくれたり、「寒いから気をつけてね」なんて言って、カイロをいっぱい持ってきてくれる人がいたりとか、「頑張ってるね」なんて言って、おやつもらったり、いろいろですよ。

双葉町の魅力 あらためて感じる

06

震災前の双葉町の魅力は何もない所かなと思ってたんだけど、やっぱり人情味豊かで、隣近所が近かったなと思って。夜な夜な集まって踊りの練習とかして、その時間が一番楽しかったねってみんなして言ってます。敬老会のために踊りを週1回とか、近くなってきたら週2回とか練習して「今年はどうやろうか」といろいろ話したり。ダルマ市のときに作品展示会もあったのね。「どれを作って展示しようか」というような話もして。隣近所が近くて、悩み事とか、子どもたちの「こうなんだよね」なんていう話もできたので、すごく良かったなと思っています。



07 新しい風がだんだん 吹いてきている

双葉町の復興住宅に行くと、新しい方が入ってきて、新しい風がだんだん吹いてきているのかなと思ってます。そしてその人たちも一生懸命。双葉町をつくってこうと機運も高まって、それはそれでいいのかなと思って。私たちはもうどうしようかって心が揺れるわけね。まだ私の所は避難指示解除になってなくて帰還困難区域なので、解除になるまでには、家を造るのにもなかなか大変でしょう。今後双葉に行って建てるのも大変だしなと。



08 30年続けたダルマ作り この先も

震災後から再開したこのダルマ作りは、これからもこの女性部の皆さんで続けていきたいって思います。30年近く続けてきたので、双葉町を盛り上げるためにも続けていかなきゃいけないなと思って、使命感をもってやっています。あと、双葉の土地とかなんかはやっぱり残しておいて、何かカフェなんかできればいいかなとは思ってるんですけど、材料もないし困ったなと思って。孫たちが双葉のことをあんまり分らないので。双葉の土地もせっかくあるんだから、何かに活用したいなかって思っているんですけど、どうしようかなとは思っているのね。



interview

いわもと ひさと
岩本 久人 さん

双葉町商工会 会長

2023年と2024年の双葉町ダルマ市実行委員会委員長。

町商工会、議員活動の他、伝統芸能の保存活動にも

取り組み、神楽の太鼓奏者なども務めている。

01 南勝てば商売繁盛、北が勝てば五穀豊穡

双葉町のダルマ市は巨大ダルマ引きだからね、何といっても。南北に分かれて巨大ダルマ引きをやるというのが一番のダルマ市のメインイベントなので。オープン参加で、相当な人数で引っ張るわけだから、綱も太くて硬いんです。南勝てば商売繁盛、北が勝てば五穀豊穡とか、そういった願い事があるんで、その年に願いたいほうにつくって感じで。



02

神楽
地域ごとに

あとは何といっても、駅前にある初發神社の神楽の競演。各行政区に保存会があって、神楽を継承しています。それぞれ行政区によって神楽の舞が違うんだよね。笛の音色とか、太鼓のたたき方とか。神楽の頭の舞とか、それぞれ地区によって特徴があって。それがまた、いいんですよ。

お店もいっぱい出していたいてますし、芸文協の皆さんがそれぞれ出し物をステージの上で披露をしたり。それもダルマ市を盛り上げてくれる一つの要素でもあります。

03 震災後のだるま市

震災の翌年から夢ふたば人の皆さんが仮設住宅でダルマ市を引き継いでくれたんです。それは本当、感謝です。それがなかったら本当にダルマ市はなくなってたかも分かんない。それほど彼らの貢献は大きいと思います。夢ふたば人の皆さんで、小規模で自分たちにできるようなダルマ市をやりました。もちろん勿来地区の商店の方とか、お店を出してくれる方々の協力をいただいて、勿来の南台に双葉町の大きな仮設があったので、そこで継続してやったんです。バスなんか出して人集めたかな。3年ぐらいたってから、埼玉のほうとか、各地からシャトルバスを出して。やっぱり何といっても、ダルマ市というのは皆さんの強い思いがありますから。伝統のお祭りなんで。なので南台のダルマ市に、大勢の町民の方が来ましたよ。それで、一番聞こえてくるのが、「久しぶり」って。「今どこにいるの？」って。そういう、みんなとの再会の場所ってような感じで。皆さん、本当に抱き合っていましたね。

ダルマ市を繋いでくれた
功労者に感謝

04

「よくここで再開してくれた」。感動。ダルマ市が避難場所で行われるっていう、その感激ですね。夢ふたば人さんのほうから、商工会のほうも出店の協力してくれっていうことで、青年部、女性部が店を出して協力しましたね。来年で、双葉町で3回目のダルマ市になるんですけど、それこそ本当に感激ですよ。双葉町にダルマ市が戻ってきたって。駅前で行えるっていう、その喜びっていうか。大勢の町民の皆さんがダルマ市に来てくれたという。町民ばかりじゃないですけどね、近隣の町村の方から「おー、双葉町ダルマ市、町内で再開したな」って言って来られた方が、結構いたと思います。いずれにしても、この夢ふたば人の皆さんが震災後、避難先でダルマ市を継承してくれたというのが、一番感謝です。彼たちが続けていなかったら、ダルマ市の火は消えてたかもしれませんから。ですから、夢ふたば人の皆さんは一番の功労者だと思います。そのことだけは言っておきたいと思います。

05 引き継ぐこと

まず若い方にそのダルマ市を見ていただく、参加してもらおうと。我々中高年は、ダルマ市をなんとか盛り上げて、継承していくのに努力をして、1人でも2人でも若い方がついてきてくれればなと思います。ダルマ市に関わっている若い方が、これから自分たちの子どもが成長するにつれて、なるべく子どもたちもダルマ市に連れてきて、我々の背中を見てくれれば、必然とダルマ市の良さも分かって継承してくれるのかなと思いますけどね。

これからのことっていうのは、避難された皆さんも町民の方も考えてらっしゃると思いますけども、決して双葉町を、ふるさとを忘れたわけでもなく、望郷の念というのは皆さんあると思うんで。ダルマ市とか、そういったいろんなイベントをなくすことなく、避難先から町民の皆さんが来ていただけるように継承していくと。歴史と伝統、文化を継承していくということが大事だと思います。



06 これからの双葉町

よく言われてますが、協働の町づくり。みんなで参加して、お互いに自分では自分では。これからは企業と町民、みんなで今後の町の課題、町づくりに関して、取り組んでいかなきゃいけないことなのかなと思います。企業を巻き込んだ、我々商工会としてもそういう役目を担わなきゃいけないかなというふうに思います。



interview

奉納神楽 (初發神社)

ダルマ市2日目に初發神社において神楽を奉納した3団体。



新山芸能保存会



三字芸能保存会



渋川芸能保存会



しんざん 新山芸能保存会

しらと なおひろ
会長 白土 直裕さん

○神楽の特徴について教えてください。

まず、獅子頭が黒いの。他の団体は、だいたい赤なんだけど、うちは雄の獅子だから黒い。あと、流れの中で“暴れ”が一番の特徴かな。町内の邪気だったり、人からの悪魔払いだったりってことで、6点囃む。で、苦しみながら踊るって形。一番速くて暴れて、派手っていったらあれだけど、迫力は双葉町の中では一番あるのかなと思うね。前までは、初發神社の外にはみ出るくらい暴れていたね。

○震災後、どのように活動していますか？

だいたい。芸能を保存していくためにはっていうことで、みんなに声かけたら、「都合よければ参加する」っていった。震災前の神楽の道具は第1分団屯所に残っていて、(まだ帰還困難区域の時に)笛吹いてたのと2人で車で入って全部持ち出して。クリーニング出したり、獅子頭とかはちょっとずつ修繕したり。物自体は(自分が消防団に入る)30年以上前から使ってるからね。

○今後、神楽をどのように繋いでいきたいですか？

震災とか関係なく、過疎化だったりなんだりでなり手がいないとか、高齢になってできなくなったとかってどこでもあることなのね。ましてや、うちらが避難してる中で、震災前に消防団に(神楽が)委託されてたのを新山区に返そうと思ったの。それも消防団だけでやっていくにはもうそろそろきつから。区にいる若い人を呼び込んで、人を多くしようという計画でいたの。最初から10人も20人も集まる必要はねえ。2、3人から始めて大丈夫。1人でも入ってくればいいんだ。



さんあざ 三字芸能保存会

いわかわ こういち
会長 岩川 孝一さん

○神楽の特徴について教えてください。

うちの団体は本当は幕前から舞まで45分かかる。んで、他の団体と比べて獅子頭に重みがあるんだよね。だからこそどっしりとした舞になる。お囃子とかは基本どの団体も流れる的には同じなんだけど、最後の舞が激しくて見栄えがあるから、太鼓も激しくなるんだよね。獅子頭が重くて45分もかかるもんだから、若者でないとこれはできねえ。震災前に各家をまわってた時は10~15分を30軒くらい。体力が一番必要だね。

○震災後、どのように活動していますか？

そんなに頻繁には、やんないよ。俺が習い始めた頃は、週に3・4日とかやって。一回舞台さ出てやってくと、慣れて、そんな練習もすることなくなるんだ。歌だったり、笛や太鼓が鳴ったりすれば、自然に体は動くようになってっから。よっぽどの舞台演技のときはやるけども、あとはさらっと。それは毎年メンバーが変わらないからってのもあるね。今回も前日の夜に1時間くらいやっただけ。みんな避難先も別々だから、新しい人が入っても教える時間がとれないんだな。

○今後、神楽をどのように繋いでいきたいですか？

ちょっと前にもお囃子がいなかったら地域の他の人に手伝ってもらって話があがったのね。今、駅西住宅に笛吹ける人が住んでるらしいから、そういう人に助けてもらったりとか。今回も新山から1人お囃子の人をお借りした。どこの団体もお囃子はそんなに変わらないからね。そうしないと若い人には入ってもらえない。でも一番は、目立つ獅子頭とかに興味をもってもらわないとだね。何かの興味を持たないと、みんな集まんねえべかと思うんだ。俺としては、いろんな人に協力してもらってでも続けていきたい。それが生きがいみたいなもの。



しぶかわ 渋川芸能保存会

あさだ ゆきのぶ
副会長 朝田 幸伸さん



○神楽の特徴について教えてください。

幣束が2つに分かれてる形の踊りになってるところですね。あと鈴舞については、他の地区だと、いくつも鈴が付いてる形なんですけど、うちのほうは鉄の輪が付いてるような感じ。幕は、幕を作ったときに迫力があるように大きく作ったので、4人入るといようなことになってます。新山や三字地区というのは、どちらかというと双葉町の南側の地区で、渋川は北側の方の地区なので、そういったところでちょっと、地域差が大きいかもしれないです。

○ダルマ市での神楽の思いを教えてください。

昔からやってるものではありますけども、披露できる場っていうところを大事にしながら。また昔の仲間たちと集まれる場ということで、楽しみにしてますね。神楽奉納させていただけるのもありがたいことだと思いますし、他の人たちも集まって、やる人もそうですけど、見に来てくれる方々も、「自分の地区の神楽だな」なんていうことで見に来てくれる方もいらっしまったので、震災以降、散らばってしまった人たちとか、集まってくれる場所というところが、いいのかなって思ったりします。

○今後、神楽をどのように繋いでいきたいですか？

続けていくなれば、練習をどうやって再開というか。急にできるものでもないし、神楽のレパートリーを一つ一つ覚えていかなければならないので。太鼓にしても、そのパートごとにあるリズムだったりとか、笛でも音色が変わってみたいとかってするので、その辺、工夫していかなければならないし、また踊り手に合わせるっていうようなアレンジだったりとかっていうのが必要になってくるので、やっぱり難しいところあるとは思ってます。練習を重ねなければならぬってところは思います。



1.11(土) 双葉町ダルマ市

09:00

09:30

10:00 ● 開会式

10:30 ● 子ども樽みこし

11:00 ● ドラえもんショー

11:30

12:00

12:30 ● 巨大ダルマ引き

13:00

13:30 ● お笑いステージ
(クールポコ)

14:00 ● ドラえもんショー

14:30

15:00

15:30 ● どんと祭

午前中は子供たちが神輿を担いだり
ドラえもんショーが行われたり
子供向けのイベントも多数!

子ども樽みこし



今年の綱引きは第3回戦まで
決着がつかないほどの
接戦でした...!

巨大ダルマ引き



北と南に別れて
巨大ダルマを
中心に綱引き!

間近で見る炎に
圧倒されつつも、
落ち着いた気持ちに...

どんと祭



一年間自分達を守ってくれた
飾り物やダルマを初發神社で
お焚き上げします。

2025レポート

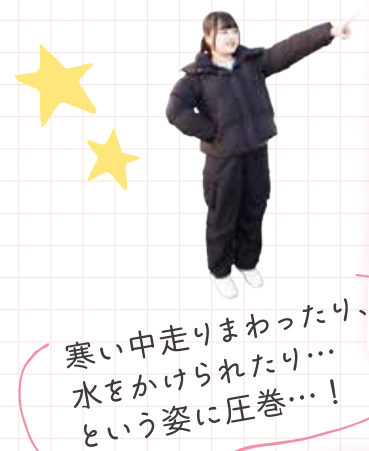
1.12(日)

奉納神楽



場を清め、厄を払い、
1年の無病息災・
家内安全を祈ります。

芸能発表会



寒い中走りまわったり、
水をかけられたり...
という姿に圧巻...!

ダルマ神輿



裸の漢たちが
神輿を担ぎ、祭りの
会場内を練り歩きます。

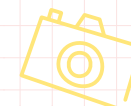
閉会式

今まで見たことのある
獅子舞とは違う
雰囲気を感じました...!

奉納神楽大会

双葉町芸能発表会
民俗芸能披露

ダルマ神輿



ものまねステージ
(坂本冬休み)

大道芸
(羽舞)

09:00

09:30

10:00

10:30

11:00

11:30

12:00

12:30

13:00

13:30

14:00

14:30

Report!



福島大学3年 坂田直香

ダルマ神輿が一番記憶に残っているのですが、寒い中神輿をかつぐ消防団員の方も、それをカメラにおさめようとしていく来場者の方もみんなの笑顔が印象的でした。また、双葉町にゆかりがある方々の出店やキッチンカーなど多くの屋台があって、イベントのみならず、食べ物を目的にしていた来場者の方もいらっしゃいました!

ダルマ市 MAP 2025

双葉町コミュニティーセンター

JR 双葉駅

双葉町役場

初發神社

01 双葉町商工会

今年はふたば幸福焼きを販売していました。甘い餡子ともちもちの生地がとっても美味しい。なによりダルマ型の可愛い姿は必見です！

02 JA福島さくら女性部双葉支部

双葉ダルマと言えばここ！女性部の皆さんが手作りしたダルマを販売しています。ダルマには双葉ダルマと太平洋ダルマの二種類があり、カラーバリエーションも豊富です。ぜひお気に入りのダルマを探してみてください♪

03 初發神社

1日目の終わりにどんと祭が開催され、2日目に神楽が奉納されます。2025年は3つの行政区の神楽が奉納されました。舞や囃子に違いがあり、それぞれ特徴のある神楽となっています。暴れの部分は特に大迫力！

05 巨大ダルマ引き

1日目に行われる、北と南に分かれてダルマを引き合うダルマ市の目玉イベント。3回戦行われ、最後の3戦目は特に大迫力！縄も太くかなりの重さがあります。誰でも参加できるので、ダルマ市に来た記念にぜひ参加してみてください！

06 ダルマ神輿

2日目に行われるダルマ神輿。会場を一周しお店の前を左右に行ったり来たり、勢いよく巡ります。会場全体に響く「ワッショイ！」の掛け声はダルマ市の一体感を感じられます。

Report!

福島大学2年 立石茉穂

このMAPでは載せきれないほど多くの出店があり、双葉町ダルマ市ならではの出店もありました。初めて行きましたが、お店の人だけでなくインタビューを受けてくださった皆様に優しく受け入れていただきとても心温まりました。また来年も遊びに行きたいと思います！

04 巨大ダルマ

双葉駅を降りてすぐ、大きなダルマがお出迎え。晴れた日にはその真っ赤な体と顔周りの青さのコントラストがとても綺麗です。力強い眼差しでダルマ市を見守っています。記念写真はここで間違いなし！

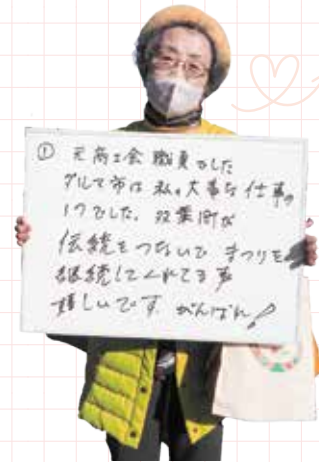
Q1 ダルマ市の何を楽しみにしてきましたか？

去年は見るだけ
だったダルマ引き。
今年は引いて
勝って、ダルマを持ち
かえることを楽しみに
して来ました。
いい雰囲気のダルマ市、
大好きです。

福

初めて
来ました。
大きなダルマや
おどりなど、
とても楽しい
イベントです。
来年もまた来ます。

福



Q2 あなたのダルマ市の思い出を教えてください

子どものころ
から何度も来ていて、
やっと毎年遊びに
来れるようになって
うれしいです。

福

娘の受験の時に
合格ダルマを買いに
来ました。
合格しました、
双葉高校に。

福



思い出が
よみがえります。
久しぶりでしたが、
とてもうれしく
なりました！

福

双葉町は
高校で3年間
通ったところ。
ダルマ市は
初めて来ました。
にぎわいが
戻りますように。

福

みなさんの
笑顔を楽しみに
初めて来ました！
誰もが、幸せな日々
を過ごせることを
願っています。
ダルマさま、よろしく
お願いします♡

福

子どもの時毎年
ダルマ市を楽しみに
していました。

福

毎年楽しみ
でした。
ダルマ市では、
日頃食べられない
ものや夜遅くまで
遊んでいても親に
怒られる事もなく、
楽しんでいました。

福

小学生の頃
電車で双葉に
遊びに来た記憶。
震災後はいわきの
南台仮設住宅で
日だまりでおしゃべりした
ダルマ市。

福

祖母の故郷の
ダルマ市。
歩くだけでも
わくわく！冬の
寒い時期になると
思い出し、去年は
数年ぶりに祖母を
連れて来ました。

福

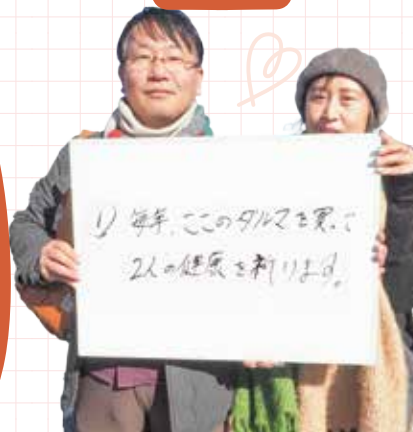


普段、
なかなか会えな
い方との再会が
何より楽しみです。
声をかけてもらって
名前を呼ばれると
自然と
笑顔になります。

福

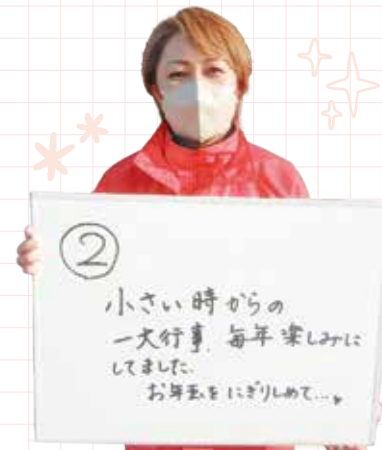
ハタチを
祝う会で
双葉町のダルマ市
にきました！
小さい頃にみていた
大きいダルマが
またみれて
すごく嬉しいです！

福



ダルマ綱引き
を楽しみにして
きました。
思った以上に
引っ張られて
びっくりです！

福

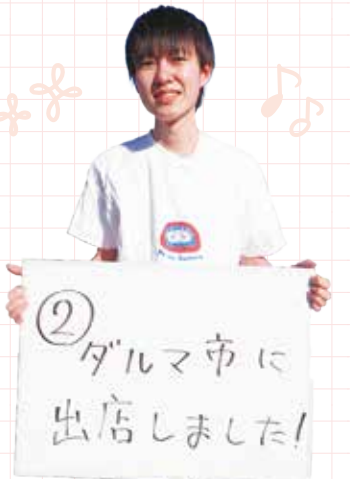


小さい頃
ばあちゃんに
つれていって
もらった
楽しい思い出が
あります。

福

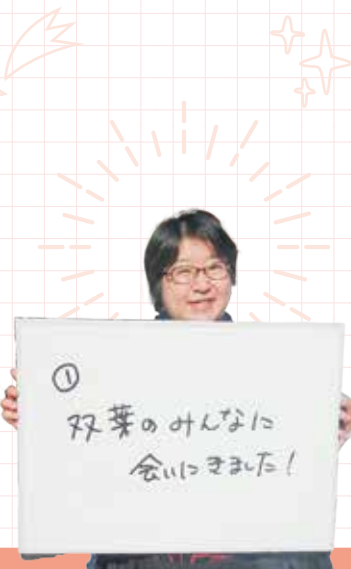
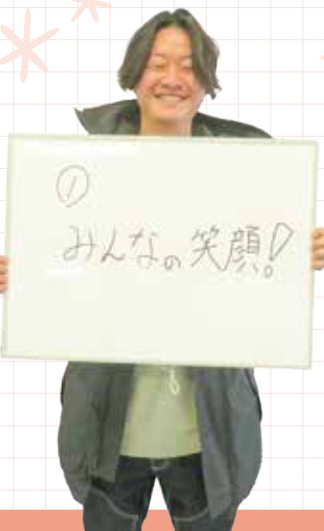
70数年前
雪の降る
ダルマ市が寒く
とも苦にならず、
楽しみに待っていました。
思い出は鮮明に
残っています。

福



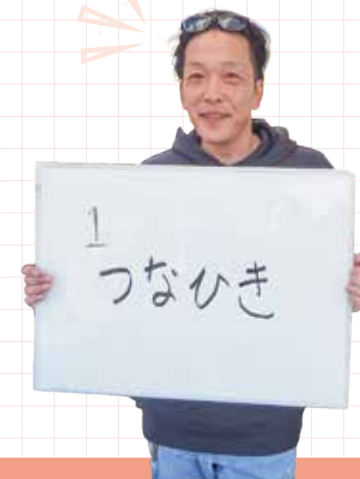
いわき市で
開催されていた
ダルマ市も
たくさんの方を
つないでいてとても
よかったです。

福



推し活(ふたば
ちゃん)のために
今日は来ました。
子どもたちの笑顔
をみれて心から満た
されました。

福



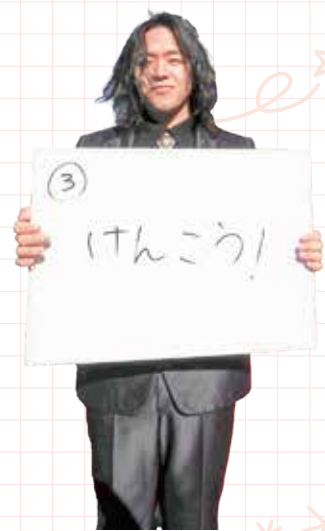
子供の頃
から一番の
楽しみでした。
またあの町全体の
にぎわいが戻って
きてほしいです!!
町民体育館で食べた
おもちが
おいしかった♡

福



Q3 ダルマにどんな願いをこめますか？

Q4 これからダルマ市がどうなって欲しいですか？

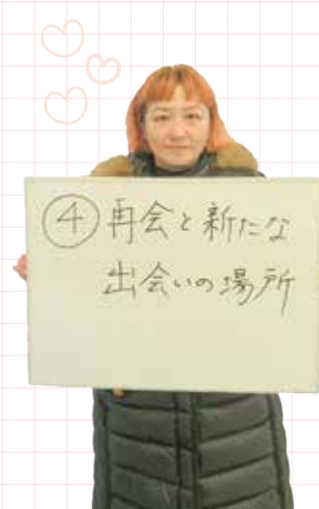


家族みんな
元気に
過ごせますように！

福

双葉をふるさと
にする方もそうで
ない方も笑顔で
ふれあえる町で
あって欲しい。

福



今までの
双葉町の伝統
や思い出を残し
ながら、たくさん
の人が懐かしさを
感じるイベントに
なってほしい。

福

このにぎわい、
盛り上がり、素敵な
文化が末永く
続きますように!!

福

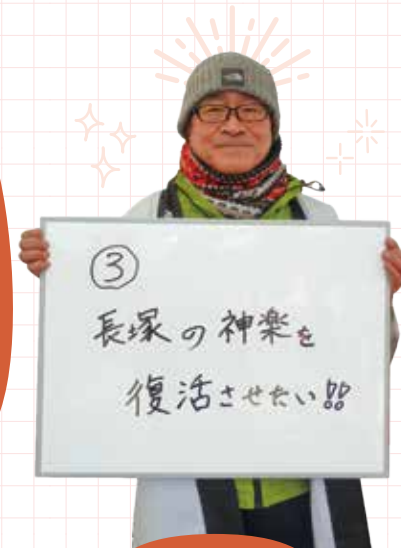


これからずっと
つづいていくと
いいね。
皆様の幸せを願って。

福

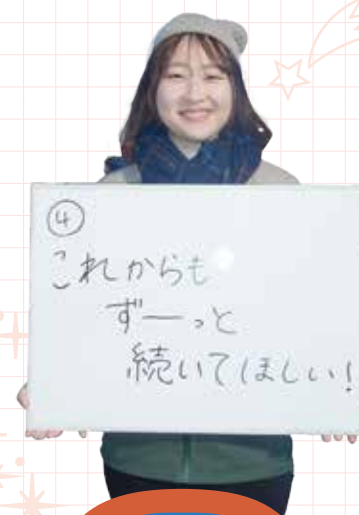
双葉にたくさんの
人が訪れる
ようになり、
にぎわいのある
まちになって
いきますように。

福



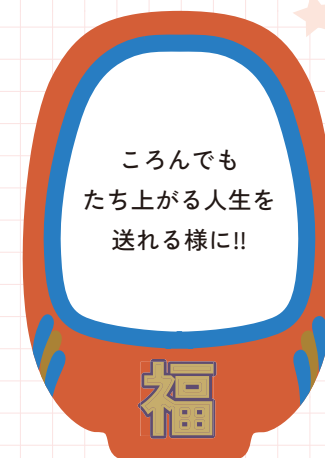
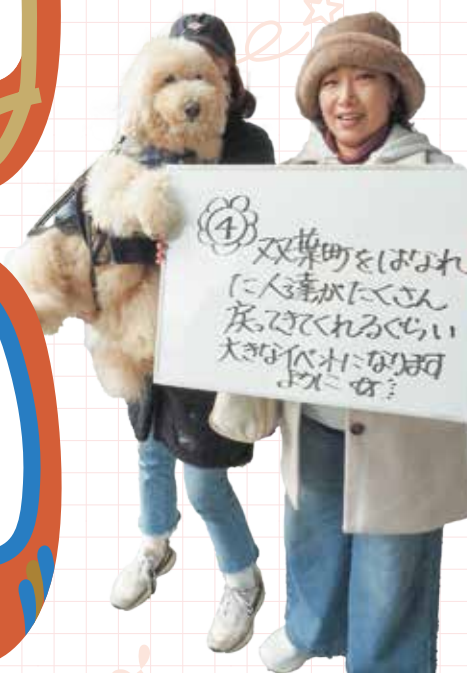
JAとして
双葉の復興を
願っています。
長い道、くたびれず、
あきらめずに
頑張ってください。
一緒にです!!

福



人と再会できる
場所として、
ずーっと
続いてほしい。

福



福

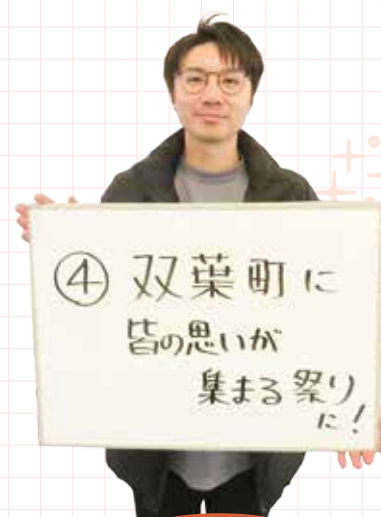
一日も早い
復興と双葉町に
賑わいが戻って
きますように!
災害のない
平穏な暮らしがで
きますように!

福



2025年
双葉町が更に
復興し賑やかで
楽しい町になり
ますように!!
これからもたくさん
遊びに来ます。

福



双葉町に
皆の思いが
集まる架け
橋に!

福

これまで
居た人もこれ
から住む人も
ほっこり笑顔に
なれる伝統ある
ダルマ市がず〜々
と続きますように!!

福

いつまでも
老若男女、笑顔で
多くの人で毎年
にぎわって欲しい
です。

福

ダルマは
決して
倒れない。
双葉は大きく
立ち上がる!

福



双葉町の
にぎやかな姿と
今年一年が平穏に
過ごせますように。

福

福島の一
日も早い復興
を願ってます。
ダルマ市で更に
双葉が盛り上が
りますように!

福

いつまでも
素晴らしい
ダルマ市が
続きます様に!!

福

双葉町の人たち
だけではなく、
福島県、県外の人たち
にも広まれば
うれしい。

福

